

研修報告書 No.24

所 属： 国立国際医療センター

研修先： 梶原病院

○県外在住医師から見た高知の地域医療の状況

高知県梶原町で 1 か月間地域医療研修を行いました。梶原町は高知県の北西部に位置する人口約 3,000 人の山間の町で、町の面積の大部分を森林が占めています。高知市内から車で約 90 分と決してアクセスが良いとは言えませんが、自然豊かな環境の中で町民の方々が支え合いながら生活している姿が印象的でした。高齢化が進む中で、病院だけでなく地域全体で住民を支える仕組みが整っており、医療・介護・福祉・行政の多職種連携が非常に密であることを実感しました。訪問診療やケアプラン会議を通して、患者さんの生活や家族背景を理解しながら医療を提供する姿勢に、都市部の医療とは異なる地域医療の本質を感じました。何よりも重要な気づきだったのは、町民の方々の「つながり」です。小さな町だからこそ、お互いを思いやり、助け合って暮らしている様子が日常の診療の中でも強く伝わってきました。医師と患者という関係を超えて、人として支え合う温かさがありました。

また、それぞれの方がこの町への愛着と信頼を持っていることも印象的でした。東京などの都市部と比べると、医師との距離が非常に近く、住民の皆さんが医療者に親しみを感じている点も素晴らしいと感じました。県外から来た私に対しても皆さんが温かく接してくださり、私の話にも興味を持って聞いてくださったことがとても嬉しかったです。

○研修内容に対する意見

研修では、外来診療、病棟管理、訪問診療、ワクチン業務、そして近隣クリニックでの診療など幅広い診療業務に携わることができました。特に訪問診療では、患者さんが自宅でのように生活しているのかを自分の目で見ることができ、在宅医療の重要性を実感しました。また、ワクチン接種の現場では町民の方々が集まり、医療スタッフと和やかに交流しており、地域全体で予防医療に取り組む姿勢を感じました。

梶原病院の先生方は、限られた医療資源の中で内科から外科的処置まで幅広く対応されており、その柔軟さと総合力に感銘を受けました。大学病院では診療科が細分化され、特定の疾患に集中して研修を行うことが多いのに対し、地域医療では「一人の医師があらゆる症状に向き合う」ことの重要性を学びました。

また、患者さんとの信頼関係を築くために、先生方がわかりやすく方言で会話している姿も印象的で、地域に根ざした医療とはこうした日々の積み重ねから生まれるのだと感じました。

○今回の臨床研修で得たこと

今回の研修で得た最大の学びは、地域に根ざした医療の「温かさ」と「信頼関係」の重要性を体感できたことです。医療は単に病気を治すだけでなく、患者さんの生活や背景に寄り添いながら、その人らしい生き方を支える営みであると改めて実感しました。多職種の方々が密に連携し、患者さん一人ひとりを地域全体で支える姿は、今後の医師としての姿勢を考える上で大きな示唆となりました。

私は将来、腫瘍内科の分野で患者さんの生涯に寄り添う医師になりたいと考えています。がん診療においても、信頼できる医師が近くにいること、そしてその医師が患者さんと深くつながっていることが、安心や希望につながると信じています。今回の研修を通じて、地域医療で感じた「つながり」や「支え合う力」を忘れず、患者さんと信頼関係を築きながら、人生に寄り添う医療を実践していきたいと思います。

この1か月間、温かく迎えてくださった栲原病院の先生方、看護師の皆さん、そして町民の方々に心より感謝申し上げます。ここで学んだ経験を胸に、今後の研修や診療にも活かしてまいります。